

## 地域と結ぶ

# 順天堂大学練馬病院ニュース

## 災害拠点病院としての役割

このたびの東日本大震災には、被災した方々のお気持ちを察するに余りあるものがあります。心より一日も早い復興と、心と体の回復をお祈り申し上げます。

当院は平成17年7月に開院し、今年で満6年を迎えます。練馬区の小児、救急、周産期、がん診療の基幹病院としての役割と共に、練馬区の災害拠点病院としての役割も担っております。これまで当院は、練馬区をはじめ練馬区医師会、警察、消防、近隣町会の皆さまと協力して、来る東京直下型地震に備えて、災害訓練を行って参りました。



院長 児島邦明

当院建物は、何重層もの主に鉄板とゴムで構成された免震装置100個以上の上に乗っており、開院当時はあまり一般的ではなかった最も先進的な免震構造で建築されております。震度7の巨大地震の発生にも耐え得る構造のため、お陰さまで去る3月11日(金)の東日本大震災の際にも、全く損壊箇所はなく、安心して通常診療を継続することができました。また、72時間の非常用電源も装備されており、有事の際には災害拠点病院として、練馬区地域の皆さまの命と安全を守る体制を整えております。

今後も、災害拠点病院としての責務を果たすべく今回の経験を活かし、病院近隣に住む医師・看護師等のスタッフを迅速に集め、安全に効率的に災害時診療が行えるよう、準備を整えて参ります。皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



地域の皆さまの  
心と身体のおアシスで  
ありたいと願っています。  
何なりと  
ご相談ください。

## 新任副院長紹介

副院長

整形外科・スポーツ診療科 教授 野沢雅彦

順天堂大学練馬病院は、開院して6年が経過いたしました。この間、全職員が地域の皆さまに信頼され愛される病院になること、また、先進的な医療を提供することに努めてまいりました。

本年4月より副院長を仰せつかりましたが、私は受診される皆さまの心が、より一層癒され、安心して治療を任せいただける病院であり続けられるように努力していきたいと思っております。順天堂の学是であります、“仁”の心を持ちながら職員は仕事をしております。お気づきのことがございましたら、何なりとお知らせくださいますようお願い申し上げます。



教授 野沢雅彦

## 新任院長補佐紹介

院長補佐

消化器内科 教授 宮崎招久

私は4年前に当院消化器内科に着任し、今年4月1日より院長補佐を拝命いたしました。

当院は日本で最も優れた免震構造を誇り、感染予防対策も整った病院です。最新の医療機器も整備されており、全人的・総合的医療に努めております。

児島邦明新院長のもと、地域の皆さまにより一層信頼される病院を目指して頑張っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



教授 宮崎招久

# 3月11日、帰宅困難者の方に 院内に泊まっていただきました。

平成23年3月11日(金)午後3時、震災直後に院内外を点検し、損害ゼロを確認しました。

震災直後は、ほとんどの交通機関が不通となってしまったため、当院にも多数の帰宅困難者が発生しました。

当日の外来患者さんや、入院患者さんのお見舞いのために来院された方など、帰宅困難者の方々に、災害時の簡易ベッド仕様の外来ソファと、外来診察室の診察ベッドを使用し、患者さん24名、職員20名の皆さんに泊っていただきました。

また、災害用に備蓄していた飲料水、ビスケット(アメリカ製)を提供し、空腹を凌いでいただきました。余震の続く中でしたが、震災当日の夜を当院で安心して過ごしていただけたものと思います。

皆さまには、翌朝の交通機関の再開を待つ、ご自宅にお帰りいただきました。



帰宅困難者の方々



非常食(水、ビスケット)を配布



外待合室のソファで簡易ベッド設営



外来中待合に簡易ベッドを設営

# 東日本大震災

# 被災地救援活動

救急・集中治療科 前任准教授 杉田 学

被災から一週間たった3月18日(金)、当院の混乱が落ち着いたのを見届けて、私は宮城県仙台市を訪れました。

災害対策本部で把握されている情報をもとに、宮城県沿岸を北に南に視察をした結果、仙台空港近くの岩沼市に常駐して欲しいとの依頼を受けました。

すぐに東京に戻り医師、看護師、薬剤師、事務員によるチームを編成して3月23日から岩沼市に入り診療を開始しました。



処置をしています。

被災地の状況



第1期スタッフ

空いているスペースを利用して問診しました。

岩沼市の避難所のうち最大の二か所を主な活動拠点として、24時間体制での巡回診療・医療保険指導を行い、最終的に4月3日(日)までの11日間に3つの医療班を派遣し、557名の診察をしました。

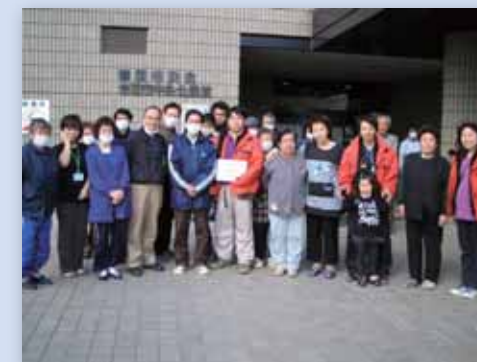
発災から働き続けていた市長、市の職員にも身体的・精神的な健康診断をしたのち、現地の医療機関に役割を引き継いで撤収しました。



前任准教授 杉田 学



第2期スタッフ



第3期スタッフ

沿岸部は壊滅的な被害を受け、肉親を失った方も多かったにもかかわらず、皆さん忍耐強く協力し合っていました。我々が援助できたことは本当に小さな支援だったかもしれませんが、かわりに大きな力を貰った気がします。

3月23日～3月26日 第1期  
3月26日～3月30日 第2期  
3月30日～4月 3日 第3期

宮城県災害対策本部と連携し、岩沼市二木の避難所、岩沼市体育館、岩沼市民会館、岩沼ビッグアリーナなどで被災地支援医療活動をしました。

5月7日～5月12日  
東京都医師会及び東京都福祉局と連携し、気仙沼高校救護所・市民健康管理センターすこやかにおける医療救護活動も行いました。



# 東日本大震災 被災地救援活動

メンタルクリニック 先任准教授 八田耕太郎

私は、以前からお付き合いのある岩手医科大学附属病院 神経精神科からの要請で、岩手医大こちらのケアチームメンバーとして4月5日から岩手県北部沿岸の久慈地域(久慈市および野田村)で活動しました。



先任准教授 八田 耕太郎

活動内容は、チーム\*を2つに分け、私の属した本隊は、県保健所、市保健センター、村役場、地元病院(久慈享和)、ボランティアセンターを訪問し、事例を含めた問題の情報収集・情報交換を行った上で、久慈市の被災者用住宅の個別訪問、および野田村役場職員との面接を実施しました。もう一方の分隊は避難所を巡回しました。

\* チーム構成：岩手医科大学附属病院の大塚耕太郎講師がマネージメントを行い、岩手医大の看護師1名、心理士2名、ケースワーカー1名、事務2名、久慈県立病院より看護師1名および派遣された支援医師(日本医科大学附属病院から看護師もペアで連続的に交代要員が派遣されてくる1チームと、九州大学病院、大分大学医学部附属病院、順天堂大学練馬病院が交代で1チーム)により構成

疲労で苛立ちを内在する住民や、燃え尽きに向かいつつある役場職員などへのこちらのケアチームとしての支援は、非常に配慮を要するものでした。「ニーズに応じた対応をデリケートに行う」ことが本質的と思われました。それによって、疲労極まる住民や被災地職員の支えになりうるのだろうと実感しました。毎晩余震で中途覚醒する中での活動は、容易ではありませんでした。

# 順天堂醫院の歴史

## 関東大震災と順天堂

大正12年9月1日（土）午前11時58分に起きた関東大震災で、順天堂はほぼ全焼に近い被害を受けた。地震による建物の崩壊は逃れたが、最初の大揺れで、モルタル造りの病棟の屋根瓦はすべて滑落し、板葺きがむき出しになった。

午後2時頃、水道橋方面からの火の粉がこの屋根に降り注ぎ、病棟から燃えだした。入院患者をすべて玄関前に連れ出し、まず隣の女子師範（現在の医科歯科大）の校地に移送したが、その頃になると、神田三崎町からあがった火の手が駿河台一帯に広がり、御茶ノ水の堀に火が走っていた。このままでは順天堂が危ないと、上野公園を目指して神田川に沿って松住町に出て、五軒町、西黒門町、天神下から池之端、茅町をへて上野公園の精養軒の前の木立にまで到着した。このとき歩ける患者以外は看護婦が背負ったり、担架輸送して一人の負傷者も出すこともなく、退避することができたのであった。

順天堂は、午後3時頃焼け落ちた。もし避難の判断が遅れていれば、人災を起こし、大災害になるところであった。



大正十二年震災直後順天堂医院前庭  
患者の救出状況

順天堂大学医学部医史学研究室  
特任教授 酒井シヅ

# 節電対策にご協力を お願いします!

当院では節電対策のため、一部の照明やエアコンなどの使用を節電モードにさせていただいております。

また、職員のユニフォームにつきましても、省エネルギー活動の一環として、ノーネクタイでの勤務を10月31日まで許可しております。

皆さまには、ご不便をおかけしますが、何卒、ご理解ご協力のほど、お願い申し上げます。

